

甲第358号証

甲  
B  
第  
161  
号  
証

# オレンジルートで爆撃訓練

99年1月20日、空中給油訓練の最中に編隊を組んでいた僚機と空中衝突した岩国基地の海兵隊機FA18は、高知沖で墜落した。この事故報告書には、もし事故が起きていなかったら、この2機編隊がオレンジルートを低空飛行しながら、ルート上の3か所で対地爆撃訓練を行う予定だったことが書かれていた。

これまで米軍の海兵隊機や艦載機が低空飛行ルートを飛ぶことはよく知られていたが、その低空飛行の途中で対地攻撃訓練を行っていることが明らかになったのは初めてだ。こんなことを野放しにしておけば、ルートの下地域がすべて爆撃訓練の目標となりうる。米軍の爆撃訓練空域が、限定された射爆場だけでなく全国のいたるところに拡がってってしまう。

また、発電所やダム、道路や鉄道などの施設が目標となる。わずかなタイミングのずれやパイロットのミスが、これらの施設への墜落事故や空中衝突を引き起こす。ルートの下地域の住民は、低空飛行の危険性にさらされてきたが、爆撃訓練が加わることで、その危険性が倍加する。

これまで日本政府は、低空飛行は基地間移動という言い訳をしてきたが、爆撃訓練を行っていることが判明したことで、この言い訳が全くのウソだったことが明らかになった。

報告書に出ていた、低空飛行ルート上での爆撃訓練についての記述は以下の通り。

## 1. 事故機と編隊を組んでいたリード機のパイロット、カーリー少佐の話

私(ティモシー・M・カーリー少佐)は、岩国基地から飛ぶ3機編隊のリーダーで、コールサインはL ANCER11だった。任務の内容は、レンジ565(リマ空域一訳注)での空中給油訓練と、その後の低空飛行訓練だった。

(嘉手納の)KC135との空中給油訓練についての話のあと、我々は低空飛行訓練について打合せを行った。その訓練には、低空飛行訓練ルートに沿った3つの目標に模擬攻撃をかけることが含まれていた。

[実際には、1機が不調のため2機で離陸し、空中給油を受ける直前に空中衝突した一訳注]

## 2. 事故機のパイロット、ケルビン・ペッツォルド大尉の話

我々に何か疑問点がないかどうか聞いたあと、カーリー少佐は低空飛行ルートに話を移した。空中給油の後、我々はお互いの機体の目視チェックを行う。その後編隊を組んでルートの入口のAポイントに向かう。Aポイントに近づいたところで、リーダーをゴールドン大尉と交代する。我々はAポイントとBポイントの間の最低高度が1000フィートに制限されていることを確認した。[ゴールドン大尉の機体は、実際には、不調のため離陸を諦めた一訳注]

我々は3つの攻撃目標について打合せを行った。攻撃目標は、Bポイントの曲がりくねった道路、Cポイントの発電所、Fポイントのもう一つの発電所だった。少佐は次に、攻撃方法について語った。我々は攻撃編隊を解いて30度上昇・30度降下の攻撃パターンをとる。最高高度は地上から4000フィート以下、降下の高度は2200フィートだった。目標から4マイルの地点で、ゴールドン大尉は進路を30度ずらして30度上昇する攻撃パターンに入る。その20秒後に私(ペッツォルド大尉)が進路を90度変えて上昇する。ゴールドン大尉は、目標からの離脱を遅らせて、我々が再度編隊を組むのを容易にする。低空飛行ルートを出たら、ゴールドン大尉をリーダーにしたまま岩国基地に向かう。



UNITED STATES MARINE CORPS

Marine Fighter Attack Squadron 212

Marine Aircraft Group 12

1st Marine Aircraft Wing, MARFORPAC

UNIT 37300

FPO AP-06603-7300

DSN 253-4528

FLIGHT SCHEDULE FOR: WEDNESDAY, 20 JANUARY 1999 THIS FLIGHT SCHEDULE CONTAINS

Julian Date: 8320 Moonrise: 0854 OOD: 0600-1100 CAPT FRANK  
 Sunrise: 0720 Moonset: 2012 1100-1600 CAPT DIXON  
 Sunset: 1724 Lunar Illum: 19% PMCF: MAJ HANSEN Airfield

EVT	NO	Callsign	Brief	ETD	ETA	A/C	Aircrew	MSN	T/C	TMR	Area	Ret
	1	LANCR 01	0815	0800	1030		# MAJ TOY	AR 202,602	1A7		L2EW	JOI
	2	LANCR 02					MAJ KNOWLES	NAV 201	1A6		(0800-1100)	
	3	LANCR 03					* CAPT O'CONNOR	AA 221			JNTR ORANGE	
	4	LANCR 04					CAPT DIXON				(0800-1100)	
	5	LANCR 11	0645	0830	1100		# MAJ CURRY	AR 202,602	1A7		L2EW	JOI
	6	LANCR 12					CAPT GORDON	NAV 201			(0800-1100)	
	7	LANCR 13					CAPT PAETZOLD				JNTR ORANGE	
	8	LANCR 21	1115	1300	1530		# MAJ HANSEN	AR 202,602	1A7		L2EW	JOI
	9	LANCR 22					LTCOL WILKINS	AA 314,315	1A5		(1300-1600)	
	10	LANCR 23					* CAPT RAUENHORST	NAV 201			JNTR ORANGE	
	11	LANCR 24					MAJ O'DONNELL	AS 232			(1300-1700)	
	12	LANCR 31	1145	1330	1600		# MAJ TEEPLES	AR 202,602	1A7		L2EW	JOI
	13	LANCR 32					COL FLOCK	AA 314,315	1A5		(1300-1600)	
	14	LANCR 33					* CAPT FRANK	NAV 201, AS 232			JNTR ORANGE	
	15	LANCR 81										
	16	LANCR 82										
		* SECTION LEADER					# DIVISION LEADER				+ MISSION COMMANDER	

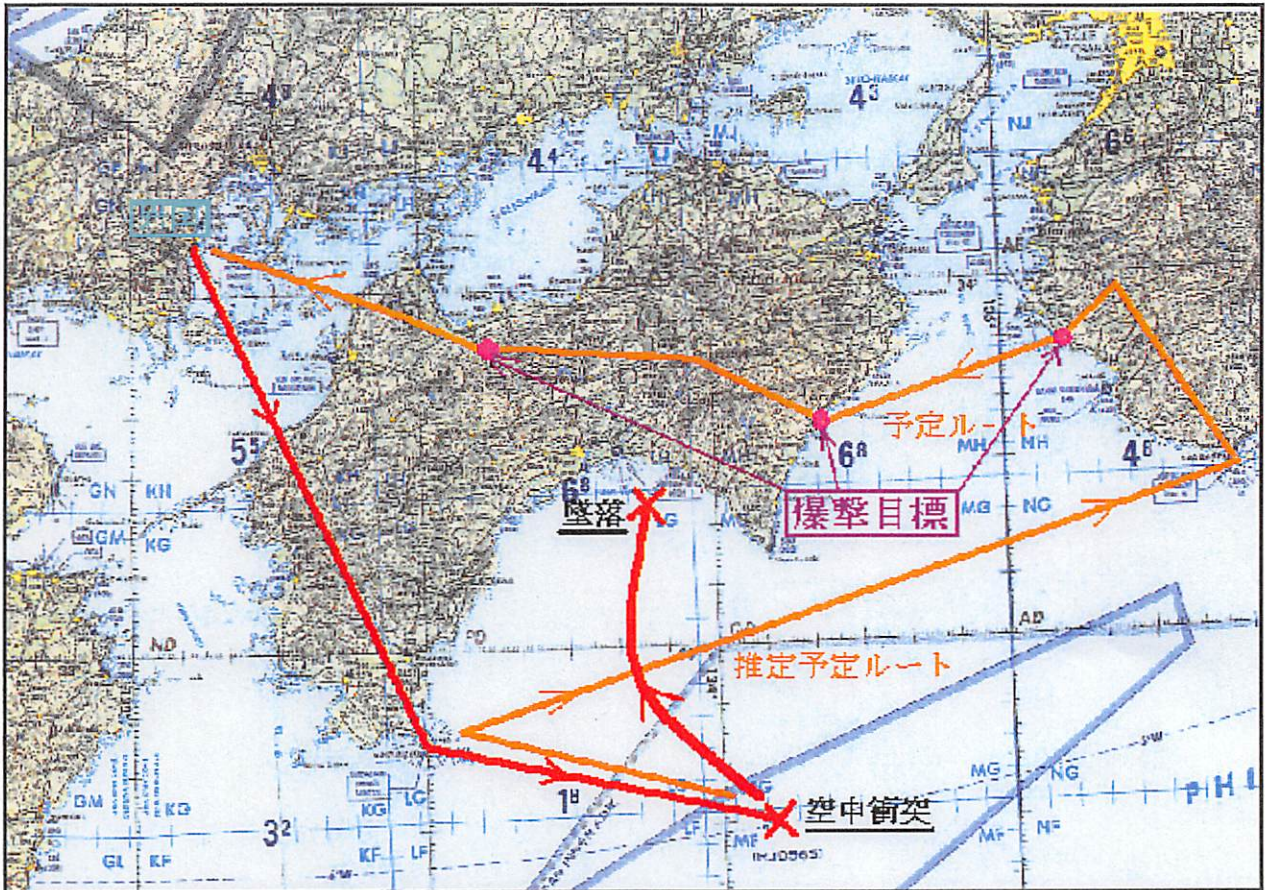
General Notes:

- 0730 - FOO WALK, ALL HANDS.
- 1800 - CAPT PARK RETURNS FROM ATSUGI.

事故機の属する飛行隊の、当日のスケジュール。オレンジルートの名前が見られる。

| HOME | オレンジルート | 事故機の飛行経路図 | 高知県消防ヘリパイロットの疑問 |

# 高知沖に墜落したFA18の飛行ルート



高知沖に墜落したFA18の事故報告書から作成した。  
 四国沖のリマ空域(米軍名称565エリア)でKC135との空中給油訓練中に、僚機と空中衝突した岩国・海兵隊のFA18は、岩国基地に戻れず、代替空港の高知空港に向かったが、土佐湾に墜落した。  
 空中衝突がなければ、空中給油実施後、FA18の編隊はオレンジルートで低空飛行訓練を行いながら、ルート途中の3カ所(道路、2つの発電所)を目標とする模擬爆撃行動をとる計画だった。  
 図の赤線が実際の飛行ルートで、オレンジのラインは(一部推定を含む)飛行計画ルートだ。米国防地図局作戦飛行地図"ONC G-11"を使用した。

[HOME](#) | [オレンジルートで爆撃訓練](#) | [オレンジルート](#) | [高知県消防ヘリパイロットの疑問](#)